

1998年11月1日(日)～11月29日(日)
11月の寄贈品コーナー

新しく収蔵された昆虫標本

会期：11月1日(日)～11月29日(日)

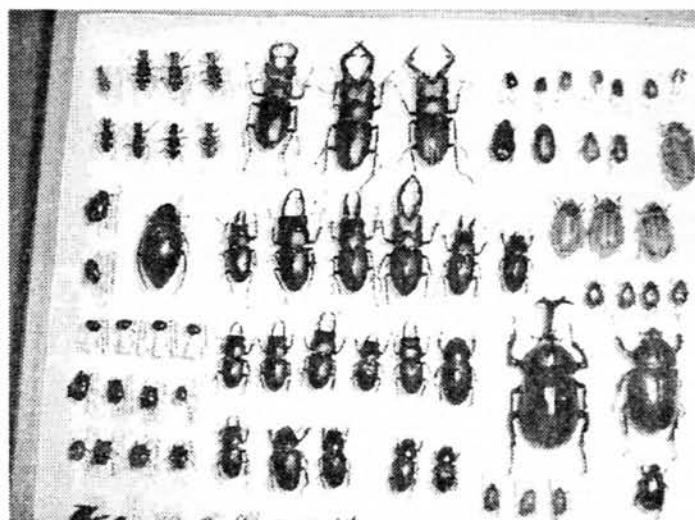
博物館には、毎月のように新しい標本が収蔵されていきます。市民の方から寄贈される場合もあり、調査活動の中で収集される場合もあります。いずれの場合にも、標本には採集地や採集時期についての情報をラベルとしてつけ、時には専門家の助けも借りて正確な種名を同定し、博物館資料としての登録を行うという作業を行っています。11月の寄贈品コーナーでは、さまざまな形で、館に収蔵された昆虫標本を紹介します。

丹沢大山自然環境総合調査の標本

1994年から1997年まで、県環境部の組織した調査団によって丹沢の自然についての総合調査が行われました。博物館でもこの調査に参加し、鳥類や昆虫の情報収集に協力しました。その折りに採集した昆虫標本が、県の生命の星・地球博物館で同定を受け、報告書に掲載される過程を経て、博物館に戻ってきました。これらの標本は、それぞれのグループの専門家の目を通してあるので、今後の館蔵資料の整理の上でも基準となる重要なものです。

大類正久コレクション

小田原市在住の大類正久氏から寄贈して頂いた昆虫標本の一部です。大類氏は長く、伊豆半島で仕事をされ、箱根から伊豆にかけての昆虫類・ザトウムシ類・陸貝類・モグラ類などの分布を精力的に調べてこられました。昨年から今年にかけて、当館に昆虫標本と、キセルガイ類・マイマイ類など陸貝の標本を多く寄贈して頂きました。



酒井春彦コレクション

大井町在住の酒井春彦氏から寄贈して頂いたアリ類のコレクションです。酒井氏は長年、アリ類の生態の研究を行ってこられ、博物館の行事でも指導を頂いたことがあります。アリ類のコレクションは、氏の研究成果の一部を寄贈して頂いたもので、今後も新しい種類を追加して頂けるとのことでした。

スズメバチの巣のいろいろ

市民の方々から寄贈して頂いた、スズメバチの巣を紹介しました。光沢があるように見えるのは、保存性を高めるために、木工用のボンドを吹き付けてあるためです。